

QUALIFYING NEWS FLASH



Round
2

予選速報

2011 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第2戦 2011年6月5日(日) オートポリス

www.f-nippon.co.jp

発行人/編集人:
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0047 東京都千代田区九段南2-3-25

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

BRIDGESTONE

Series Supporter

人気酒造

Take Free
ご自由におとりください



2&4レースが九州初上陸!

ついに掴んだ!! 塚越 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING) が初ポールポジション

福岡出身の井口卓人が大健闘! 決勝は7番グリッドからスタート

6月4日(土)、全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第2戦の予選がオートポリスで行われ、No.41 塚越広大 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING) が初ポールポジションを獲得した。

またも有力選手が脱落したQ1、Q2

上空は晴れ間が広がり、気温がぐんぐん上昇。午後1時50分から注目のノックアウト予選が開始された。気温は24度、路面温度は33度まで上昇。ピット出口がオープンされると、半分以上のクルマがすぐにコースへ。ここで最初からニュータイヤを装着して走り出したのは、朝のフリー走行時にトラブルなどでニュータイヤを使えなかったNo.2 平手晃平 (TEAM IMPUL)、No.37 中嶋一貴 (PETRONAS TEAM TOM'S)、No.62 嵯峨宏紀 (Le Beausset Motorsport)。またQ1突破を目指して、ルーキーのNo.18 アレクサンドレ・インペラトリー (SGC by KCMG) もニュータイヤだった。その他のドライバーは、ユーズドタイヤでマシンのバランスを確認。残り時間が5分を切ったあたりで、ニュータイヤでのアタックに向かった。ここでまず1分31秒台のタイムを出して、トップに立ったのは、No.1 J.P.オリベイラ (TEAM IMPUL)。No.32 小暮卓史 (NAKAJIMA RACING) がそれに続く。直後、この2人のタイムを上回ったのは、午前のフリー走行でトップタイムをマークしていた塚越。さらに、No.7 大嶋和也 (Team LeMans) が2番手に滑り込んだ。一方Q2進出を逃したのは、中嶋一貴、No.3 アンドレ・ア・カルダレリ (KONDO RACING)、No.10 小林



崇志 (HP REAL RACING)、嵯峨の4人だった。

10分のインターバル後、午後2時20分に7分間のQ2が始まる。このセッションでは、気温こそQ1と同じ24度だったが、路面温度は若干上昇。セッションが開始されても、しばらく動きはなし。各陣営ともにピットでコースに出て行くタイミングを待ち、開始から3分半というところで多くのマシンが一気に動いた。ここでチェッカーを受けると同時に、再びトップタイムをマークしたのは、塚越。大嶋がやはり2番手で続き、以下、オリベイラ、No.8 石浦宏明 (Team KYGNUS SUNOCO)、小暮と続く。一方、Q3進出を逃したのは、No.40 伊沢拓也 (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)、No.31 中嶋大祐 (NAKAJIMA RACING)、No.33 国本雄資 (Project μ/cerumo・INGING)、インペラトリーという結果になった。

塚越が全セッションの制覇を達成!

そして、午後2時37分にQ3が開始。この7分のセッションでも、開

始から約3分というところで動きが出る。まずオリベイラとNo.16 山本尚貴 (TEAM 無限) がコースイン。その30秒後には、小暮、今回スポット参戦のNo.36 井口卓人 (PETRONAS TEAM TOM'S)、平手、塚越、大嶋、石浦の順でコースに入る。ここでまずトップに立ったのは、オリベイラ。小暮がそれを上回る。だが、今日の他のセッションと同様、この2人を上回り、唯一1分30秒台のタイムを叩き出したのはQ1、Q2に続き、ここでも塚越だった。そして、大嶋も塚越に続く2番手に浮上している。

その結果、塚越は参戦3年目にして、嬉しい初ポールポジションを獲得。昨年、ここオートポリスで初ポールを獲得した大嶋が2番手につけた。朝の練習走行でいきなりクラッシュする波乱のスタートとなった小暮が、最後は何とかまとめて、3番手に滑り込んでいる。また、福岡は柳川出身の井口も7番手というポジションを獲得。地元の大応援を受けて、がんばりを見せた。



アジア王者デチャがP.P、レース1は全日本王者山口が制す!

アジア選手権SS600クラスで昨年チャンピオンを獲得したデチャ・クライサルトがコースレコードを大幅に更新する驚速ぶりを発揮し、レース2のポールポジションを獲得! 土曜日に決勝が行われたレース1は、ゼッケン1をつける山口辰也が独走優勝!

ST600

予選速報は 中面 です!

あまり考えず無になって走ろうと思った



ポールポジションを獲得することができて、ホンダや DOCOMO TEAM DANDELION RACINGに感謝しています。前回の鈴鹿で悔しい思いをしたので、エンジニアの(田中)耕太郎さんと反省会をし、次をどうすべきかプランを立てました。耕太郎さんとはコミュニケーションが取れているようで取れてなかった。でも今回は、チームはチームでできることをシミュレーションしてきて、自分は自分で耕太郎さんが作ったクルマをどう乗れば速く走れるのか、確認ができました。結果、(クルマの)感触もすごく良くて、そのまま予選に臨んで、ほとんどクルマのセットも変えず、あとは自分が失敗しなければ大丈夫だろうと思ったんで、すごくプレッシャーはありましたが、ポールが獲れて良かったです。今回はあまり考えず無になって走ろうと思いました。だから決勝もそう走れば良いと思います。

オートポリスでも躍進するニューウェーブ! しかし、レースはそう簡単じゃない。さあ、これからが本番だ!!

2nd No. **7** 大嶋 和也 Team LeMans

決勝のペースには自信がある



前回の鈴鹿はホンダ勢に歯が立たなかったのですが、今回クルマをかなりアップグレードしてもらいました。走り始めからクルマはいい感じで、ポールポジション争いができると思ってきました。Q1、Q2はバランスを見ながらうまくいったんですが、Q3はちょっとオーバーステアに苦しみました。第2ヘアピンの立ち上がりでミスがあり、その影響が出たのもったいなかったかな。(塚越に)0.5秒離れたのは悔しいですが、決勝のペースには自信があるので諦めずに優勝を狙いたいですね。

3rd No. **32** 小暮卓史 NAKAJIMA RACING

3位からでもチャンスはある



(朝のフリー走行で)クラッシュしてクルマを壊しました。時間中に一生懸命チームが直してくれて、最後の7、8分でニュータイヤを履くことができたもののクルマがまだ壊れてました。その中でセッティングしなきゃいけないんですけど、Q1、Q2、Q3とどんどんクルマはよくなったので、あと何セッションかあればもうちょっといいところをお見せできたんですが、塚越選手は今回ものすごく速かったんで、明日、追いつくかどうかかわからないですが、3位からでもチャンスはあるのでガンバります。

4th No. **1** ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ TEAM IMPUL

決勝レースではちゃんと戦略もある



今日の予選は、Q3の攻撃にちょっと悔いが残る結果になったね。というのも、1コーナーへの進入でちょっとミスしてしまって、それがタイムロスにつながったんだ。あれがなければ、間違いなく2番手のポジションは可能だったと思うよ。とは言っても、今回の塚越のあのタイムを上回ることは正直難しかったかな。彼に近いタイムを出すことはできただろうけど。とはいえ、決勝レースではちゃんと戦略もあるし、いい戦いができるという自信はあります。

5th No. **8** 石浦 宏明 Team KYGNUS SUNOCO

色々な作戦を取れるので一生懸命考えたい



去年のセッティングに近い状態で予選に行ってみたら、セクター1&2は良かったんですが、セクター3が遅かったんです。それで色々やって、Q3ではセクター3のタイムが劇的に上がったんですけど、ちょっと気付くのが遅かったですね。決勝はピットイン義務付け2回という新しい試みですが、僕の位置からなら色々な作戦を取れるので、一生懸命考えたいです。去年は接触があっても表彰台に上がれましたし、レースは何が起こるか分からないので、最後までがんばります。

Round 2 AUTOPOLIS Preview

各チームの作戦、そして対応力が見どころに! 塚越と大嶋の対決。そして井口の奪取にも期待大!!

決勝レースは、距離が250km=54周。ピット作業に関しては、タイヤ交換義務付けだが、給油の義務付けはない。この距離を走り切るには、どのチームも給油が必要と思われる。普通は1回のピット作業でタイヤ交換と給油を同時に行なうが、今回はタイヤ交換と給油を別々に行なわなければならないという規則が採用された。つまり、どのドライバーも2回ピットに入らなければならない。

では、どういタイムングでピットに入るのがベストか? 給油が先か、タイヤ交換が先か、各チームが頭を悩ますところ。予選状況や決勝に向けてのマシンの仕上がりによって、基本の作戦は立てられるだろうが、実際のレース展開は予想通りにはいかない。自チームのドライバーとライバルたちのラップタイムをチェックし、各エンジニアは作戦の変更を瞬時に判断しなければならない



いし、4輪同時のタイヤ交換はピットクルーも腕の見せどころだ。

そして、やはり気になるのはスタート。塚越広大と大嶋和也のフロントロウ対決だけでなく、2列目



の小暮卓史やJ.P.デ・オリベイラ、地元応援団の後押しを受けてスタートする井口卓人がどんなダッシュを見せるのか? まずは、その緊張の瞬間を見逃すな!

Formula NIPPON Team Pit															Pit Road																														
1st Corner																																													
46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ST 600	1	2	ST 600	ST 600	36	37	ST 600	ST 600	31	32	ST 600	40	41	ST 600	ST 600	7	8	ST 600	ST 600	10	ST 600	ST 600	16	ST 600	33	ST 600	18	ST 600	3	ST 600	62	ST 600	*	*											

SUPERBIKE EXPRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

驚速のアジア王者デチャ、残念ながらレース2欠場 レース2は、再び山口のワンサイドレースとなるか!? 藤原、中富、岡村、小林など2位争いは激戦となりそうだ



オートポリスで全日本格式では、初めてとなる2&4レースがついに開幕した。全日本ロードレース選手権は、ST600クラスのみが開催され、4輪の最高峰フォーミュラ・ニッポンとの競演が阿蘇の雄大な自然をバックに行われる。

ST600クラスは、全日本ロードレースの激戦区と言われており、世界を経験したライダー、全日本チャンピオンを獲得したライダーも数多く参戦しており、世界的にもハイレベルなレースが繰り広げられている。本来ならば、4月上旬に開幕していた全日本ロードレースだが、東日本大震災の影響で中止となったため、今回はST600クラスの開幕戦となっている。

注目は、1998年から世界を舞台に活躍、今シーズンはアジア選手権にフル参戦している藤原克昭が14年ぶりに全日本ロードレースにスポット参戦してきたことだ。藤原は、5月1日に行われたアジア選手権開幕戦でダブルウインを達成、その実力を見せつけただけに、今回もトップ争いに絡んでくることが予想された。

緒戦ということで木曜日から練習走行が設けられ、初日からディフェンディングチャンピオンの山口辰也が、コースレコードをコンマ5秒も更新する1分54秒8をマークする先制パンチを決めると、金曜日には、アジアチャンピオンのデチャ・クライサルが1分54秒9をマークし逆襲。レースウィークは、この2人を中心にセッションが進んでいった。

全日本ST600史上、初めてノックアウト方式で行われた公式予

選。これまでJSB1000クラスを戦ったことのあるライダー、チームは、ノックアウト方式は慣れたもの。それぞれ、一つでも上のグリッドを手に入れるため、Q1から各ライダーの駆け引きが始まる。オートポリスを得意とし、JSB1000クラスのコースレコードを保持している山口は、Q1ではただ一人、1分54秒台をマークし、レース1のポールポジションを獲得する。デチャは、2番手につけ、地元の岡村光矩が3番手と健闘し、ここまでがコースレコードを更新。トップ3は、またもピレリタイヤユーザーが独占した。

ダンロップ、ブリヂストンとニュータイヤを投入したが、今回もピレリの優位は崩れていないようだ。24台が進出するQ2、12台が進出するQ3と進むと、デチャが1分54秒628という驚速タイムをマーク。一方、山口は、最後のセッションにコースインしようとした際、エンジンがかからないトラブルに見舞われる。何とか、エンジンは火を吹き返し、コースインしたが不完全燃焼のQ3となってしまふ。それでも2番手につけ、レース2は、デチャがポールポジション、山口がセカンドグリッドから臨むことになった。3番手には、やはり岡本が続き、レース1に続き、レース2も同じ顔ぶれがフロントロウに並んだ。開幕戦鈴鹿では、やはりフォーミュラ・ニッポンとの2&4

レースでJSB1000クラスが行われ、4輪タイヤのラバー(タイヤカス)が路面に乗ってくると、グリップが落ちる現象が起きていた。今回は、土曜日からフォーミュラ・ニッポンが走り始め、その影響が目撃されたが、溝付きのプロダクションタイヤを使うST600クラスは、それほど影響はなかったようだ。

土曜日に行われたレース1では、スタート直後に山口とデチャ、そして岡村が接触。デチャが転倒するアクシデントが発生する。デチャは、この転倒で右手小指の付け根を骨折。残念ながら、レース2に出場することができなくなってしまう。レース1は、山口が独走で制しただけにレース2も、山口のワンサイドレースとなる可能性が高い。2位争いは、レース1同様、藤原、中富伸一を中心に激しいバトルになる可能性が高い。あとは日曜日の天気や気になるところ。注目のレース2は、どんな結末が待っているのだろうか!?



レース1を独走で制した山口。レース2を2番手からスタートする



レース1を4位でフィニッシュ、レース2を3番手からスタートする岡村



練習走行から54秒台をマークし好調だったデチャ。しかしレース1で負傷。P.P.スタートのレース2を欠場することになった

RACE 1 RESULT & REPORT 山口辰也が圧倒的な独走優勝! 2位争いは藤原克昭が制す!!

スタート直後に山口辰也とデチャ・クライサルが接触、さらに3番手グリッドの岡村光矩が接触し、デチャが転倒するアクシデントが発生。1コーナーへは、2列目6番手グリッドの中富伸一が真っ先に進入し、岡村光矩、小林龍太、山口の順で続く。

オープニングラップは、中富が制すが、2コーナーで小林がトップを奪う。山口も3番手につけ様子を伺うが、3周目の2コーナーで中富をかかわすと、その勢いそのまま第2ヘアピンで小林のインに入るがクロスラインとなり、再び小林が前に出ていく。しかし、山口は、4周目のホームストレートから1コーナーで小林の前に出ると、ファステストラップとなる1分54秒750をマークし、2番手を1秒532も引き離して戻ってくる。山口は、続く5周目も1分54秒台をマークし、あつと言う間に独走体制を築いていく。

2番手争いは、小林を先頭に、岡村、中富、藤原克昭、津田拓也、佐藤裕児、関口太郎、渡辺一馬などが続き、集団を作っていたが、ここから藤原が順位を上げてくる。8周目には、この集団のトップに立ち、これに呼応するように中富も藤原の背後につける。中富は、藤原にプレッシャーをかけるが、藤原も譲らない。そして14周目のコース後半の上りのセクションで藤原をかかわして2番手に浮上する。しかし、続く15周目の1コーナーで再びすぐに藤原が前に出ていく。

トップを走る山口は、2位を10秒以上引き離す大差で優勝。2位争いは僅差で藤原が制し、中富、岡村、小林、津田、佐藤、渡辺、関口と続いてチェッカーフラッグを受けた。

ST600 決勝 レース1 [暫定]結果

●決勝レース1(16周) / Weather: 晴れ 21.3°C 44% Track: ドライ

Pos No.	Name	Team	BestTime
1	山口 辰也	TOHORacingMOTOBUM	30'56.877
2	藤原 克昭	M-TBEETKAWASAKI	31'08.507
3	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	31'08.605
4	岡村 光矩	RSG☆ファイバー&ドリーム北九州	31'08.822
5	634 小林 龍太	MUSASHIハルク・プロ	31'11.980
6	12 津田 拓也	WestPower	31'12.036
7	11 佐藤 裕児	HITMAN RC甲子園ヤマハ	31'12.093
8	9 渡辺 一馬	KoharaRacing	31'12.610
9	13 関口 太郎	Team TARO PLUS ONE	31'17.281
10	73 浦本 修充	MUSASHIハルク・プロ	31'22.165
11	81 亀谷 長純	パーニングブラッドRT	31'22.994
12	391 酒井 大作	TEAM ZEN&プラスワン	31'26.764
13	99 岩田 悟	テルル・ハニービーレーシング	31'27.147
14	59 荒瀬 貴	グリーンクラブ能塚	31'27.381
15	62 横江 竜司	RT 森のくまさん佐藤塾仙台	31'31.833
16	39 宮崎 敦	デアークラフトレーシング	31'35.758
17	71 伊藤 勇樹	DOG FIGHT RACING-YAMAHA	31'37.072
18	10 國川 浩道	HiraNo.92R	31'37.847
19	82 原田 武人	グリーンクラブ能塚	31'38.149
20	7 福垣 誠	伊藤レーシングGMD・アケノS	31'38.939
21	5 中山 真太郎	TEAMしんたろうwith KRT	31'39.159
22	31 手島 雄介	MotoMap SUPPLY	31'39.248
23	68 篠崎 佑助	SP忠男レーシングチーム	31'45.378
24	46 西嶋 修	SPA直入インスト&ファイバー	31'45.774
25	85 山浦 司	ZOOM R.T.	31'59.016
26	50 西山 尚吾	RSGLレーシングwithファイバー	32'07.782
27	76 清水 直樹	EXPRESS Hou You	32'08.496
28	56 徳島 康則	UENO R&D BENGAL's	32'09.704
29	86 上野 太輔	MST TAMITON-R	32'27.675
***** 以上チェッカー *****			
30	37 田中 浩哉	グリーンクラブ MOTOBOY	27'56.496
31	64 矢田 栄一郎	TeamARA虎の穴	28'54.131
***** 以上完走 (12Laps) *****			
44	川嶋 恭史	RSGLレーシングwithファイバー	22'02.822
21	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	13'44.360
75	谷口 和英	チーム ライダーズ コア	12'38.879
45	相馬 利胤	BMS-R&HIE-R&WM	10'19.657
24	井上 哲悟	RS-ITOH&FAST	8'01.876
77	深津 拓真	チームスガレーシングクラブ	8'03.439
74	北折 淳	Honda緑陽会熊本レーシング	8'04.170
20	Decha Kraiart	YamahaThailandRacingTeam	スタートのみ
38	太田 連也	グリーンクラブ能塚&R・P-With	出走せず
47	白木 晶夫	グリーンクラブ能塚	出走せず
28	医王田 章弘	RS-ITOH&ASIA	出走せず

※6月4日(土) 17:19現在の暫定結果です。



RACE1 WINNER 山口 辰也

TOHO Racing MOTOBUM
『スタートでデチャ選手と接触してしまい、デチャ選手のハンドルがボクに引っかかってしまった。ボクは運よくレースを走れたのですが、デチャ選手が転倒してしまい、バトルをしたかったので残念です。予選よりも決勝の方が、涼しくなってきたので、ピレリタイヤに合ったコンディションでした。タイヤは、すばらしくいいですね。まずはレース1で勝ってホッとしました。どんな状況でも手を抜いて走ったことはないですし、レース2も全力で勝ちたいです。応援してくれるスポンサーを始め、優秀なメカニック、すべてに感謝したいです』

RACE2 POLE POSITION INTERVIEW



Pole Position Decha Kraiart

YamahaThailandRacingTeam
『オートポリスは、アジア選手権でも走っていますし、アップダウンがあり、とてもエキサイティングなコースですね。公式予選では、予想以上にタイムが出たので、とてもうれしいですね。レースでは、ベストを尽くすだけです』
(コメントはノックアウト予選終了時のもの)

※デチャ選手は、レース1のアクシデントで右手小指付け根を骨折。帰国して手術を受けることになりました。

全日本ST600クラスに『SGチャンギ賞』を設定!

2012年、シンガポール初の本格的サーキット『SGチャンギ モータースポーツハブ』がオープンします。アジアのモータースポーツのハブとしてMotoGP等の世界選手権の開催はもとより、日本のレースとの連携が計画されており、4輪ではスーパーGTやフォーミュラニッポン、2輪では全日本ロードレースが候補に上がっています。
その『SGチャンギ モータースポーツハブ』を日本の皆様知っていただくこと、アジアと日本のモータースポーツの振興を目的に、全日本ロードレース選手権シリーズST600クラス(全5戦/6レースおよび第5戦併催アジア選手権SS600クラス/2レース)に『SGチャンギ賞』を設けていただくことになりました。

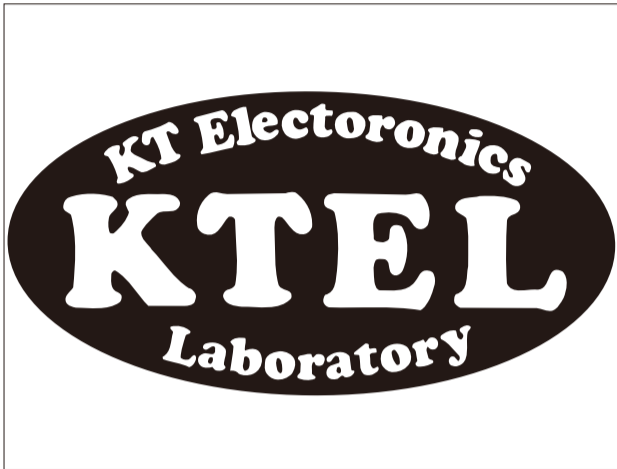


AUTO SPORT

毎週木曜日発売です

RIDING SPORT

RIDERS SPIRIT FROM MOTORCYCLE SCENES SINCE 1982



タイムスケジュール(決勝日)

8:30	8:45	ST600ウォームアップ走行
9:00	9:30	Formula NIPPONフリー走行
9:40	9:55	サーキットサファリ
10:25		CIVIC 決勝(15周)
11:20	12:05	ピットウォーク
12:40		ST600 レース2(16周)
14:30		Formula NIPPON 第2戦 決勝(54周)

Weather
本日の天気予報(オートポリス)

時間	6:00	9:00	12:00	15:00	18:00	21:00
天気	晴れ	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り
℃	15	21	28	29	25	21

イベントスケジュール(5日 決勝日)
イベント広場のステージでも見逃せないイベントが開催中!

8:30-8:45	サーキットクイーンふれあいステージ
8:45-9:00	レースクイーンステージ
9:30-9:50	ST600ライダートークライブ
9:50-10:15	2011年度 サーキットクイーンコンテスト 第1部
10:20-10:40	カンニングのDAI安☆吉日トークライブ
10:45-11:05	フォーミュラニッポントークライブ
11:10-11:30	2011年度 サーキットクイーンコンテスト 第2部(ピットウォーク会場にて開催)
12:50-13:05	レースクイーンステージ
13:30-13:45	コンテスト結果発表
15:00-15:15	レーシングライダーユニット「R4」on stage
16:10-16:20	2011年度オートポリスサーキットクイーン初登場
16:20-16:35	チャリティオークション
16:35-16:45	2009年度オートポリスサーキットクイーン卒業

公式プログラム絶賛発売中!
いま、ココでしか手に入らないスーパー2&4レース公式プログラム。タイムスケジュールや会場マップなどの情報は便利だし、中嶋親子に注目した特集も見逃せない! これ一冊を片手に観戦すれば、レースをもっと深く楽しめる! もちろん、今日のお土産にも最適です!
定価1,000円。場内オフィシャルショップほかで絶賛発売中。

J SPORTS
J SPORTSでは今年もFormula NIPPONを全戦放映。サーキットに来場できないファンに、レースの臨場感をお届けします。
決勝ライブ 6/5(日) 14:00~17:00 第2戦 決勝 オートポリス J sports ESPN (ハイビジョン・生放送)
決勝再放送 6/5(日) 22:00~24:30 第2戦 決勝 オートポリス J sports 1
6/9(木) 13:30~16:00 第2戦 決勝 オートポリス J sports 1
○番組ホームページ: http://www.jsports.co.jp/tv/motor/f_nihon/

「中嶋親子対決実現! 2011フォーミュラニッポン 全開ナビ」
6/5(日) 27:45~28:00 J sports ESPN / 6/6(月) 17:30~17:45 J sports 2 (ほか)

BSフジ
決勝日の翌週金曜日(再放送は翌土曜日)にレースダイジェストを放映します。
フォーミュラニッポン2011 第2戦 オートポリス
6/10(金) 23:00~23:55 [再放送6/18(土) 11:00~11:15]
○番組ホームページ: <http://www.bs-fuji.tv/top/pub/formura2011.html>

ST600 Starting Grid Race start: **12:40**

PP 20 Decha Kraiart Yamaha Thailand Racing Team 1'54.628	2 1 山口 辰也 TOHORacingMOTOBUM 1'55.122	3 22 岡村 光矩 RSG☆ファイバー&ドリーム北九州 1'55.266
4 57 藤原 克昭 M-TBEETKAWASAKI 1'55.551	5 9 渡辺 一馬 KoharaRacing 1'55.732	6 3 中富 伸一 HITMAN RC甲子園ヤマハ 1'55.805
7 12 津田 拓也 WestPower 1'55.951	8 38 太田 達也 グリーンクラブ飯塚&R-P-With 1'56.565	9 11 佐藤 裕児 HITMAN RC甲子園ヤマハ 1'56.596
10 21 岩崎 哲朗 RS-ITOH&ASIA 1'56.681	11 99 岩田 悟 テルル・ハニービーレーシング 1'56.759	12 13 関口 太郎 Team TARO PLUS ONE 1'57.414
13 62 横江 竜司 RT 森のくまさん佐藤塾仙台 1'56.554	14 37 田中 浩哉 グリーンクラブ MOTOBOY 1'56.703	15 63 小林 龍太 MuSASHIRTハルク・プロ 1'56.763
16 59 荒瀬 貴 グリーンクラブ飯塚 1'56.792	17 81 亀谷 長純 バーニングプラットRT 1'56.796	18 73 浦本 修充 MuSASHIRTハルク・プロ 1'56.921
19 39 酒井 大作 TEAM ZEN&プラスワン 1'56.957	20 82 原田 武人 グリーンクラブ飯塚 1'57.069	21 24 井上 哲悟 RS-ITOH&FAST 1'57.246
22 71 伊藤 勇樹 DOG FIGHT RACING-YAMAHA 1'57.675	23 45 相馬 利胤 BMS-R&HIE-R&WM 出走せず	24 10 國川 浩道 HiRaNo.92R 出走せず
25 5 中山 真太郎 TEAMしんたろうwith KRT 1'57.385	26 39 宮崎 敦 デークラフトレーシング 1'57.401	27 64 矢田 栄一郎 TeamARA虎の穴 1'57.470
28 77 深津 拓真 チームスガイレレーシングクラブ 1'57.503	29 47 白木 晶夫 グリーンクラブ飯塚 1'57.579	30 74 北折 淳 Honda緑陽会熊本レーシング 1'57.695
31 7 稲垣 誠 伊藤レーシングGMD・アケノS 1'57.731	32 31 手島 雄介 MotoMap SUPPLY 1'57.944	33 46 西島 修 SPA直入インスト&ファイバー 1'57.951
34 68 篠崎 佐助 SP忠男レーシングチーム 1'58.149	35 85 山浦 司 ZOOM R.T. 1'58.384	36 44 川嶋 恭史 RSGレーシングwithファイバー 1'58.442
37 28 医王田 章弘 RS-ITOH&ASIA 1'58.503	38 76 清水 直樹 EXPRESS Hou You 1'58.507	39 75 谷口 和英 チームライダーズ コア 1'58.623
40 86 上野 太輔 MST TAMITON-R 1'58.678	41 50 西山 尚吾 RSGレーシングwithファイバー 1'58.710	42 56 徳島 康則 UENO R&D BENGAL's 1'59.014
43 83 宮嶋 佳毅 モリワキクラブ 1'59.071	44 72 東野 賢悟 RSGレーシングwithファイバー 1'59.123	45 49 八尋 良太 H.M.F. 1'59.145
46 26 阿久津 晃輝 DOG FIGHT RACING-YAMAHA 1'59.159	47 55 長谷川 直樹 CONFIA・HMF&AS小笠原 1'59.221	48 63 矢作 雄馬 RT 森のくまさん佐藤塾仙台 1'59.279
49 67 村山 徳孝 AS小笠原&ウッドストック 2'01.802	予選日: 2011年6月4日(土) 出走49台 天候: 晴れ / 路面: ドライ 予選通過: 2'06.426 / Q1/110%	

【ご注意】本グリッド表はあくまでも暫定結果であり、リタイヤ車両があった場合、繰上げ出走がある可能性があります

GyaO! GyaO!(オンデマンド放送)
決勝終了14日後 24:00~より配信予定。

USTREAM USTREAMでライブ配信!
予選は無料で視聴可能、決勝のみ有料配信(税込721円)ですが、第2戦オートポリスについてはお試し価格525円(税込)で視聴できます。
○USTREAM: Formula NIPPON / Formula 3 / Formula Challenge Japan

GAORA 「2011 全日本ロードレース選手権 第2戦 ST600」放送スケジュール
6/13(月) 20:00~22:00 / 6/14(火) 13:00~15:00
6/16(木) 22:30~24:30 / 6/19(日) 15:00~17:00

Formula NIPPON Starting Grid Race start: **14:30**

P.P.	41 塚越 広大 DDOCOMO TEAM DANDELION RACING HONDA HR10E Q1: 1'31.357 Q2: 1'31.141 Q3: 1'30.845
2	7 大嶋 和也 Team LeMans TOYOTA RV8K Q1: 1'31.513 Q2: 1'31.294 Q3: 1'31.303
3	32 小暮 卓史 NAKAJIMA RACING HONDA HR10E Q1: 1'31.911 Q2: 1'32.023 Q3: 1'31.332
4	8 石浦 宏明 Team KYGNUS SUNOCO TOYOTA RV8K Q1: 1'32.007 Q2: 1'31.614 Q3: 1'31.490
5	36 井口 卓人 PETRONAS TEAM TOM'S TOYOTA RV8K Q1: 1'32.682 Q2: 1'32.183 Q3: 1'31.796
6	40 伊沢 拓也 DDOCOMO TEAM DANDELION RACING HONDA HR10E Q1: 1'32.407 Q2: 1'32.544
7	33 国本 雄資 Project μ / cerumo-INGING TOYOTA RV8K Q1: 1'32.954 Q2: 1'32.990
8	37 中嶋 一貴 PETRONAS TEAM TOM'S TOYOTA RV8K Q1: 1'33.290
9	10 小林 崇志 HP REAL RACING HONDA HR10E Q1: 1'33.402
10	62 嵯峨 宏紀 Le Beausset Motorsports TOYOTA RV8K Q1: 1'34.863
11	31 中嶋 大祐 NAKAJIMA RACING HONDA HR10E Q1: 1'33.077 Q2: 1'32.721
12	18 アレキサンドレ・インベトリー SGC by KCMG TOYOTA RV8K Q1: 1'33.059 Q2: 1'33.523
13	3 アンドレア・カルダレリ KONDO RACING TOYOTA RV8K Q1: 1'33.356
14	16 予選日: 2011年6月4日(土) 出走16台 Q1: 天候: 晴れ / 路面: ドライ Q2: 天候: 晴れ / 路面: ドライ Q3: 天候: 晴れ / 路面: ドライ 予選通過: 1'37.751 / Q1/107%

Support races qualifying result (top10)

ホンダエキサイトングカップワンメイクレース2011 シビック インターシリーズ第1戦 予選結果

Po	No	Driver	Car	Time
1	2	谷口 信輝	M7JAPAN プロムシビック	2'07.120
2	919	菊地 靖	クイックウォッシュLRPシビック	2'07.899
3	17	金石 年弘	Keihin Enjoy Honda CIVIC	2'07.913
4	7	大西 隆生	オートボックス G-7HD CIVIC	2'07.985
5	13	トモアキ	DIXCELカーズ東海SSRシビック	2'08.100
6	27	高崎 登	エムテックス制動屋カーズ東海SSR	2'08.205
7	4	太田 侑弥	BRIDE-ED-PETRONAS-FD2	2'08.247
8	16	北野 浩正	NUTEC制動屋GPO東野レーシング	2'08.337
9	57	後藤 比菜至	SEV-MART-ED-CIVIC	2'08.486
10	33	吉田 宣弘	蜂楽競頭GLADテクノスポーツFD2	2'08.635

天候: 晴れ / コースドライ / 出走: 18台

2011 フォーミュラニッポン年間スケジュール

Rd.1	5/14,15	鈴鹿サーキット	Rd.5	9/3,4	鈴鹿サーキット
Rd.2	6/4,5	オートポリス	Rd.6	9/24,25	スポーツランドSUGO
Rd.3	7/16,17	富士スピードウェイ	Rd.7	11/5,6	ツインリンクもてぎ
Rd.4	8/6,7	ツインリンクもてぎ	SPL	11/12,13	FUJI SPRINT CUP

本紙への広告掲載のお問合せは:
JRP 株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
03-3237-0131
<http://www.f-nippon.co.jp>
編集制作: 株式会社サンズ・SIM co., ltd. / フォトグラファー: 小林稔、大西靖